

キャストもスタッフも原点に返って

こころのミュージカル、11年目となりました。

11年前に1年生だった出演者は現在高校生。大人も子供もたくさんの出会いと別れを繰り返してきました。

昨年10年目の節目を終えて11年目になった今、私たち「こころのミュージカル」製作委員会は原点に戻っています。それは「ここがいい、これがいい」と思って「この指止まれ」で集まった参加者たちが、キャストとしてまたスタッフとして、ここで「自分らしく」生きること。輝くこと。今回再演となった丸岡秀子先生の物語は、そんな私たちが目指す「自分らしい生き方を自分の手で切り開く」をまさに体現しています。秀子先生の生き方に学びながら私たち参加者一同、心をこめてお届けしたいと思います。



出演者

榎山 世恵子	小林 健太郎	水野 夕渚	黛 萌夏
青木 忠幸	中村 友哉	大工原 若奈	渡部 真凜
小林 容子	櫻井 順香	市村 藍優名	岡澤 芽
村松 靖彦	和田 彩妃	三嶋 千咲	岩田 莉愛
青木 玲子	横山 美桜李	安部 凜	水島 ひより
和田 裕美子	宮下 彩乃	幸 まこと	廣末 虹
辰野 尚美	依田 凜夏	竹内 彩心羽	神津 美衣奈
小宮山 辰彦	砂永 海翔	倉田 向日葵	山口万里子
高見澤 繭	佐藤 凜奈	棚田 菜々星	
清水 紗央里	岡澤 麗	上原 莉桜	(順不同、敬称略)

特別出演 中村篤敬 青木賢治 本村友之

ゲスト演奏者 (邦楽演奏) 新保有生

友情出演 土屋芳美ジャズダンス教室、CVD(カンパセーションダンス)、ダンスクラブKDC

「心の中の光となって」— 人間物語 丸岡秀子の半生 —

昭和30年6月7日、第1回日本母親大会が豊島公会堂（東京）で盛大に開かれた。丸岡秀子（52歳）の登壇によって会場は一気に盛り上りを見せる。その瞬間、時間は秀子の誕生まで巻き戻ります。明治36年5月5日、南佐久郡臼田町で酒造業を営む名家の長女として出生、しかし母親がすぐに他界、幼くして母方の祖父母の元で暮らすことを余儀なくされた。祖母きいは深い愛情を注いでくれた。祖母から「農」で生きる姿を直接見て学んだ。さらに秀子には種（たね）と呼ぶ親友もできた。小学校を卒業した秀子は生家に戻され、そして長野高等女学校へ入学。一方の種は諏訪の製糸工場へ奉公に出されました。種が働く環境は悪く、女であるが故の差別や蔑視が横行、まだまだ女性の地位が低かった時代の現実でした。それを憂いながら秀子は奈良女子高等師範学校へ進学。折しも大正デモクラシーの潮流にもまれながら自分の生涯を決するに等しい人物と出会い成長します。学校を卒業し自立したその後も沢山の試練が訪れますが、秀子はどんな時も自分を見失わず、何時も自分らしく、自身の歩む道を作って生き抜きました。そして農村婦人の元を訪ね歩き本にまとめ出版、差別を目の当たりにして開放を訴え励ましたのです。それは多くの女性たちの共感とともに勇気と希望の支えとなりました…。

丸岡秀子のことば「読むこと」「書くこと」「行うこと」、今も佐久の地から世界に向けて光のように放たれています。

台本・作詞・演出 奥村達夫

音楽・補作詞 矢野由枝 山口万里子
 編曲 福嶋頼秀
 歌唱指導 山口万里子
 振付 廣末恵子 小島香菜子
 照明 中山 仁
 音響 宮下雄一郎
 音響テクニカル 杉田直之
 衣装 横山里美
 ヘア・メイク・着付け 小林容子
 大道具 石山紀明
 小道具 水野徳之
 映像 三木元太
 美術協力 佐藤あやの
 制作・進行・舞台運営 こころのミュージカル製作委員会
 舞台監督 本村友之

写真・デザイン ノザワヒロミチ
 ビジュアル制作 小林尚美
 写真・記録 小林 泰
 製作委員長 廣末恵子

制作協力 (株)オーバーチュア／東京演劇アンサンブル／
 (株)ヒューマンカンパニー

主催 (一財)佐久市文化事業団
 こころのミュージカル製作委員会

「こころのミュージカル」ホームページ

<http://kokoro-saku.com/>

<http://yaplog.jp/yatonoturugi/>(ブログ)

